

講義名	パーソナリティ心理学/パーソナリティ論			授業形態	
担当教員	銅直 優子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」とか「Bさんは神経質な人だ」と表現する。このように、個人の思考や行動を特徴づける一貫した傾向をパーソナリティという。  
本講義では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講義の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果について分析していくことや、自己理解を深めていく。

### 到達目標

パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。  
パーソナリティをどのように測定するの理解することができるようになる。  
パーソナリティにはどのような側面があるかを理解することができるようになる。  
パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。  
自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる。

### 提出課題

授業中に適宜指示する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内の質問等については、次回以降の授業内で解説を行う。  
中間テスト（授業内理解度確認）は、テストを行った次の授業時に返却し解説を行う。

### 評価の基準

授業内理解度確認（40%）  
定期試験（60%）

### 履修にあたっての注意・助言他

第1回目の講義では本講義のルール等を説明をするため、必ず出席すること。  
基本的なマナーを守って受講すること。守れない場合には、講義への出席は認めない。  
・遅刻  
・私語をしない。  
・携帯電話、スマートフォンを指示がない限りはカバンの中にしておくこと。  
・その他、他の人の迷惑になるような行為はしない。  
板書や実習資料のみを書き写すだけのノートではなく、口頭説明から理解できたことについてもしっかりとメモを取るノート作りを心がけること。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書

.ボテンシャル パーソナリティ心理学.	横田正夫・津川律子 編	サイエンス社	2530	9784781914664
.要説 パーソナリティ心理学.	鈴木公啓 編	ナカニシヤ出版	2860	978479517150
.パーソナリティ心理学.	小堀 真司	サイエンス社	2420	9784781913438

### その他

授業開始時に資料を配布する

### 授業計画

- 第1回：パーソナリティとは：性格・人格・気質  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、まとめておく）  
第2回：パーソナリティの形成・発達：遺伝と環境  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分のパーソナリティを遺伝と環境の影響の視点から説明する）  
第3回：性格をどう捉えるか 類型論  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、類型論の利点と不利点をまとめる）  
第4回：性格をどう捉えるか 特性論  
（復習 2時間：理解度確認に備えてこれまでの授業内容を全体的に復習する）  
第5回：類型論と特性論のまとめと理解度確認  
（復習 2時間：類型論と特性論について再度復習をし、理解度確認で分からなかった点について調べなおす）  
第6回：理解度確認 の解説と性格を測る方法：質問紙法（5因子性格検査）  
（復習 2時間：学んだ検査法についてさらに自分で調べなおしてみる。授業時に行った検査結果をもとに自己分析し、まとめる）  
第7回：性格を測る方法：質問紙法（16個性格検査）  
（復習 2時間：学んだ検査法についてさらに自分で調べなおしてみる。授業時に行った検査結果をもとに自己分析し、まとめる）  
第8回：性格を測る方法：投射法  
（復習 2時間：学んだ検査法についてさらに自分で調べなおしてみる。授業時に行った検査結果をもとに自己分析し、まとめる）  
第9回：性格を測る方法：作業検査法  
（復習 2時間：理解度確認に備えて第8回以降の授業内容を全体的に復習する）  
第10回：性格測定のとめと理解度確認  
（復習 2時間：理解度確認で分からなかった点について調べなおす）  
第11回：理解度確認 の解説と対人関係とパーソナリティ 非言語コミュニケーション  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分の経験に照らし合わせて考え、まとめる）  
第12回：対人関係とパーソナリティ 言語コミュニケーション・対人魅力  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分の経験に照らし合わせて考え、まとめる）  
第13回：自己意識・自尊心  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分の経験に照らし合わせて考え、まとめる）  
第14回：健康とパーソナリティ  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分の経験に照らし合わせて考え、まとめる）  
第15回：集団とパーソナリティ  
（復習 2時間：授業で学んだ内容を整理し、自分の経験に照らし合わせて考え、まとめる）  
\*理解度確認は中間テストに該当する（授業内に説明）
- 【予習について】 各自の授業前にキャンパスクロスの資料の提示しているKeywordについて自分で調べてノートに整理しておくこと（各自2時間程度）

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

複数回、心理検査を授業の中に取り入れるため、実習要素のある取り組みを行ってもらう

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標の、を達成することで、「人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測すること」に貢献することができる。また到達目標の を達成することで、「日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」に貢献することができる。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向を実施する会については、キャンパスクロスや学習支援システム等を活用し、受講生の反応を授業時に紹介し、その反応に対して解説を行っていく予定である。

### 実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」授業内で行ういくつかのパーソナリティ検査については、病院臨床において人格査定で実践している。

### 備考